

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 旭川市内の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

学校数：小学校50校・児童数2,128名、中学校25校・生徒数2,071名

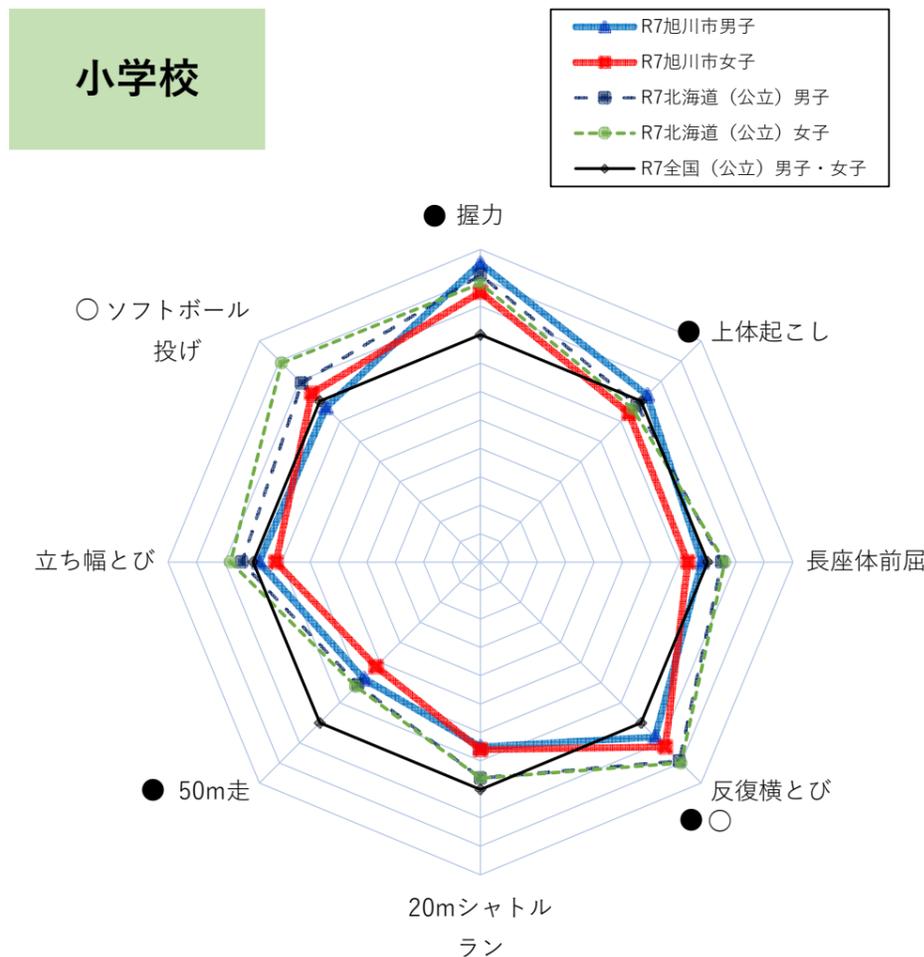
○ 実技に関する調査の状況

・各種目の記録及び体力合計点

小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7旭川市男子	52.5	50.3	49.8	50.7	48.5	47.8	49.8	49.7	49.7
R7旭川市女子	51.5	49.4	49.3	51.2	48.6	47.2	49.2	50.4	49.2
R7北海道(公立)男子	52.1	49.8	50.5	51.9	49.6	48.1	50.4	50.9	50.6
R7北海道(公立)女子	51.8	49.6	50.6	52	49.6	48.2	50.8	51.9	50.7
R7全国(公立)男子	50	50	50	50	50	50	50	50	50
R7全国(公立)女子	50	50	50	50	50	50	50	50	50

中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7旭川市男子	50.6	49	49.3	48	48.5	48.5	49.4	49.4	48.8
R7旭川市女子	50	48.3	49.5	47.2	47.7	47.4	48.6	48.6	47.9
R7北海道(公立)男子	50.9	49.2	48.6	48.6	48.6	48.1	49.5	49.7	49
R7北海道(公立)女子	50	48.6	48.7	48.3	48.1	47.9	48.7	49.8	48.3
R7全国(公立)男子	50	50	50	50	50	50	50	50	50
R7全国(公立)女子	50	50	50	50	50	50	50	50	50

・各種目の全国平均値を50とした場合(T得点)の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表示



※●は、令和6年度の本市小5男子のT得点を上回った種目
 ※○は、令和6年度の本市小5女子のT得点を上回った種目

調査結果の分析

【経年比較において記録が上昇した項目】

- ・小5 男子：上体起こし、反復横とび、50m走、ソフトボール投げ
 ※体力合計点も上昇
- ・小5 女子：反復横とび
- ・中2 男子：反復横とび、20mシャトルラン、ハンドボール投げ
 ※体力合計点も上昇
- ・中2 女子：握力、長座体前屈、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 ※体力合計点も上昇

旭川市の体力向上に向けた改善方策

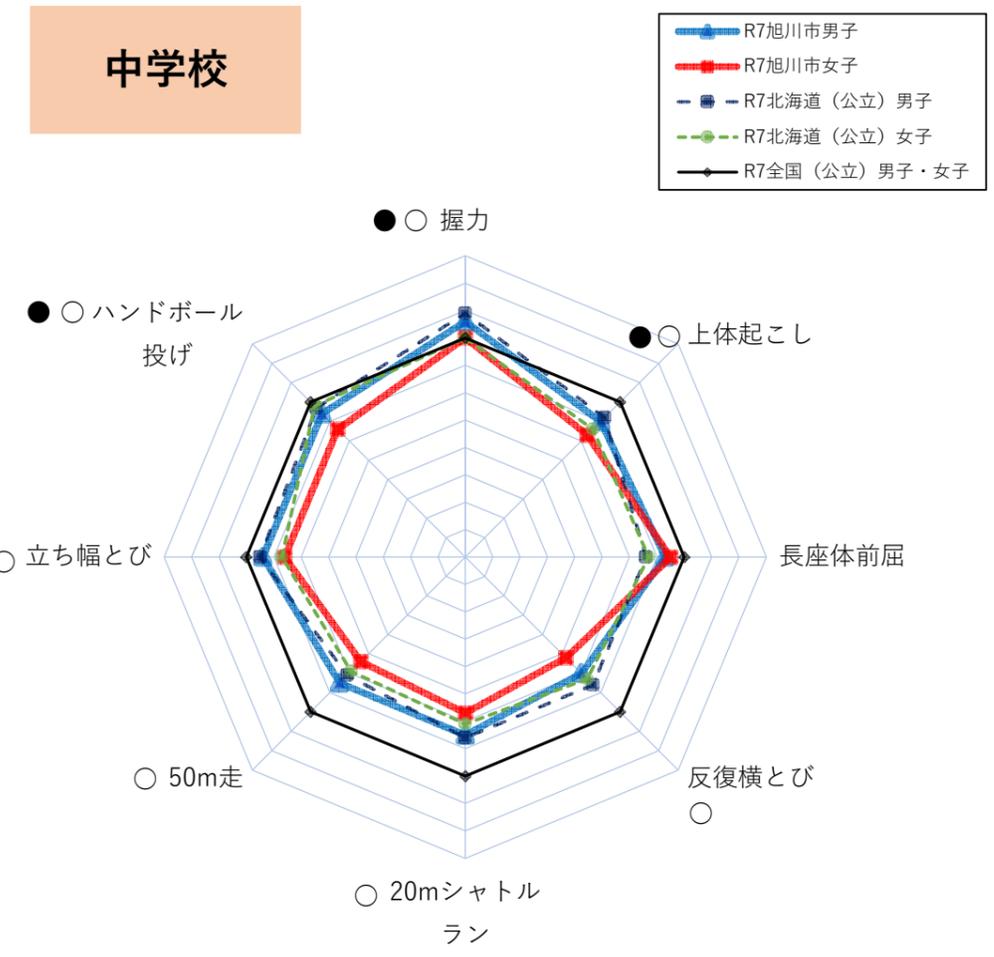
旭川市体力向上授業実践等事例集

旭川市教育委員会

「旭川市体力向上授業実践等事例集」では、

- ①【授業】における実践事例
- ②【授業以外】における実践事例
- ③【新体力テスト】における実践事例

を掲載していますので、御活用ください。



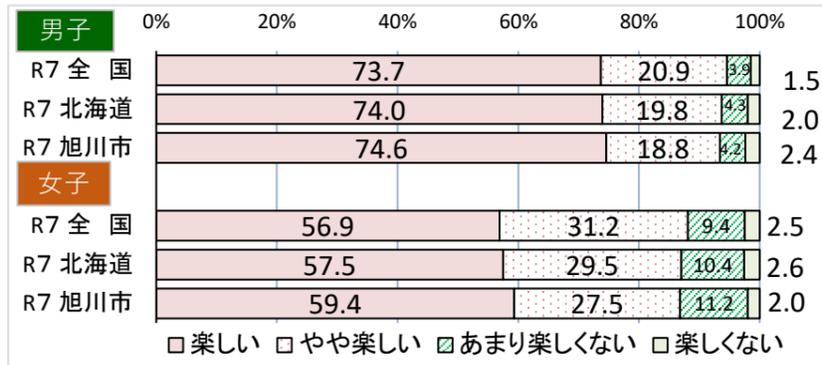
※●は、令和6年度の本市中2男子のT得点を上回った種目
 ※○は、令和6年度の本市中2女子のT得点を上回った種目

○ 質問調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

小学校

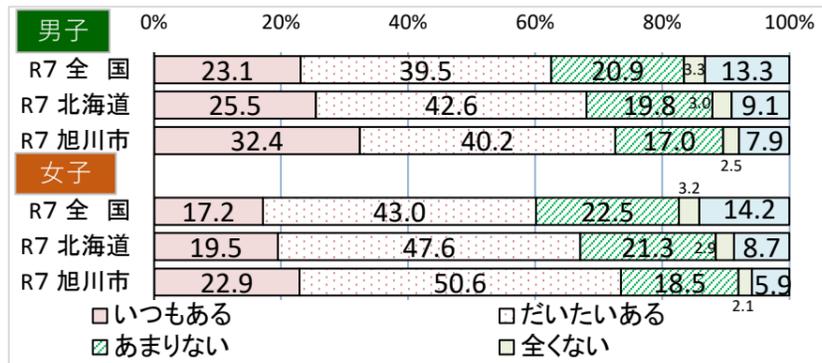
【児童質問調査】

・ 体育の授業は楽しいですか



【児童質問調査】

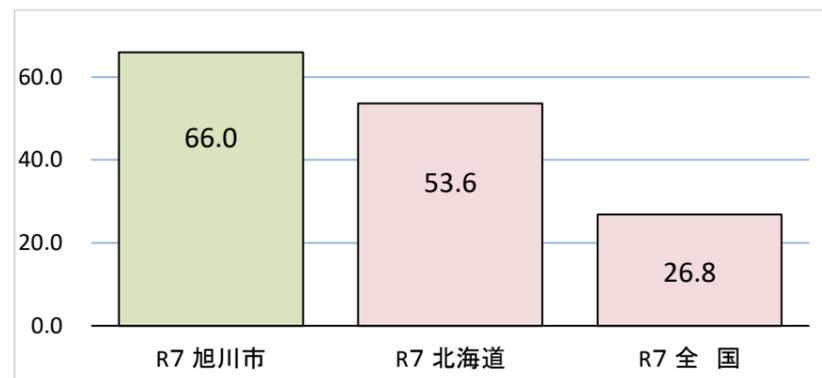
・ 体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【学校質問調査】

小学校

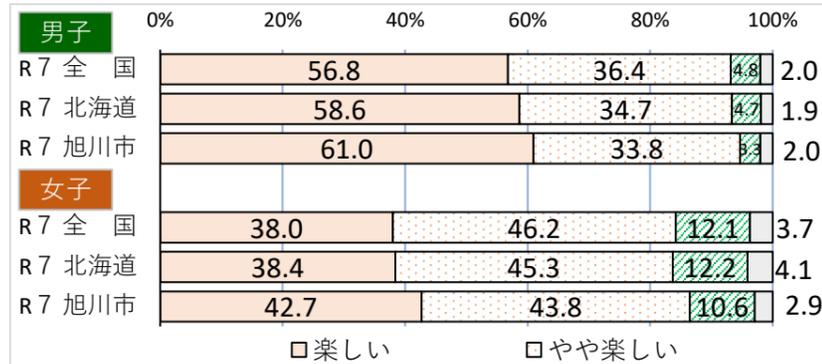
・ 調査やデータ等に基づき、PDCAサイクルを確立している。



中学校

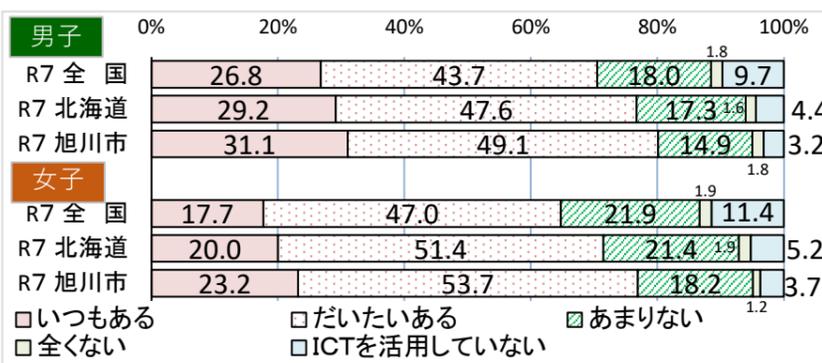
【生徒質問調査】

・ 保健体育の授業は楽しいですか



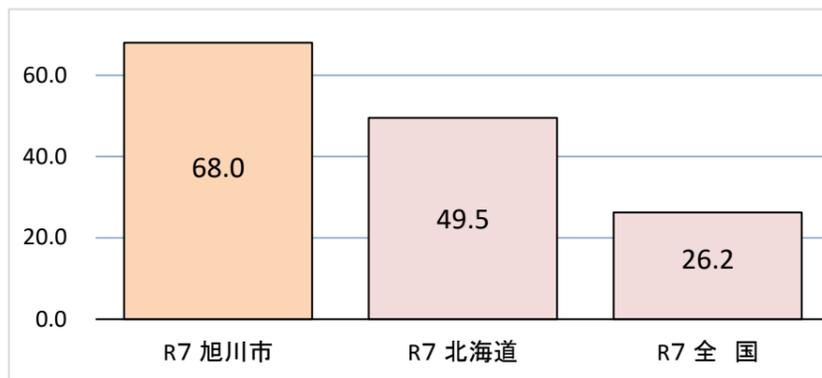
【生徒質問調査】

・ 保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



中学校

・ 調査やデータ等に基づき、PDCAサイクルを確立している。



調査結果の分析

小学校

【成果】

・ 体育授業において継続的にICTを活用し、自身の動きを客観的に捉えさせたり技能や知識の定着につなげるための指導の工夫を行ったりするなどの指導の工夫を行ったことにより、「できたり、わかったり」することがあると肯定的に回答している児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】

・ ICTの活用頻度は高いものの、「体育の授業は楽しい・やや楽しい」と肯定的に回答している児童の割合が、全国及び全道を下回ったことから、運動が苦手な児童へのスモールステップの指導や学習環境の充実など、体育授業に対する意欲を高める指導の一層の工夫・改善が必要であると考えられる。

中学校

【成果】

・ 保健体育授業において継続的にICTを活用し、運動に取り組む指導の工夫を行い、運動に対する意欲を向上させたり主体的な学習を支えたりしたことにより、「体育の授業が楽しい」と感じる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】

・ 運動に対する意欲は高いものの、保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあると肯定的に回答している児童の割合が、全国を下回ったことから、授業の目標を明示することや、新体力テストの結果等を活用して、生徒個々の実態に応じた具体的な目標を立てさせる指導の工夫・改善が必要であると考えられる。

旭川市の体力向上に向けた改善方策

【各学校の「体力向上プラン」に基づく体力向上の取組の推進】

・ 旭川市授業力向上プロジェクト体育チームにおける本調査結果を踏まえた体力向上や体育・保健体育授業の改善・充実に係る「旭川市体力向上授業実践等事例集」の活用及び普及啓発

【「体力向上研修会」の実施】

・ 体育エキスパート教員等を活用し、体育・保健体育授業や体力づくりに向けた取組の充実

【「一校一実践」の充実】

・ 児童生徒の実態に応じた運動習慣の確立や体育・保健体育授業以外の活動も含めた体力向上を図るための取組の充実



「旭川市体力向上授業実践等事例集」では、

- ① 【授業】における実践事例
 - ② 【授業以外】における実践事例
 - ③ 【新体力テスト】における実践事例
- を掲載していますので、御活用ください。

